

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月29日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330178

研究課題名（和文）ソーシャルワークとしての「子育て支援総合コーディネート」実践モデルの開発的研究

研究課題名（英文）Design and Development of Social Work Practice Model of Comprehensive Coordinate Services for Child Caregivers

研究代表者

芝野 松次郎 (SHIBANO MATSUJIRO)

関西学院大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：60162640

研究成果の概要（和文）：「子育て支援総合コーディネート事業」をソーシャルワークの視座から捉え直し、子育て支援コーディネーター（「子育てコンシェルジュ」）のためのソーシャルワーク実践モデルを研究開発した。本実践モデルは、子育てコンシェルジュが、児童館などの子育て支援拠点において、親に寄り添いながら実践できるように、iPad等のタブレット型携帯端末で稼働するITCを活用した「子育て支援ナビ・システム」とし、試用・評価・改善により汎用可能なものとした。

研究成果の概要（英文）：A social work practice model was designed and developed according to the M-D&D (modified design and development) procedures to manage social resources in a comprehensive manner to help child caregivers fulfill their tasks. A set of navigation programs was developed for a childcare concierge (social worker) to help caregivers on the spot at various child rearing support centers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2011年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2012年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学、社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク、社会福祉援助技術、子育て支援総合コーディネート、ソーシャルワーク実践モデル開発、子ども・子育て支援

### 1. 研究開始当初の背景

研究開発開始当初の平成22(2010)年頃は、少子化対策として始まった各自治体等の次世代育成支援事業が、後期計画の策定、実施の時期を迎えており、「子育て」を社会全体で支援することの重要性が社会的に認知され始めたところであった。夫婦共稼ぎ家庭のワークライフバランスだけではなく、在宅での子育て家庭を含む全ての子育て家庭、そ

して主役としての子どもの成長の支援が重要であるとされ、保育所等の整備のみならず、地域において多様な子育て支援サービスが提供されるようになっていた。子育て支援に関連する各自治体の事業数は少ないところでも優に100を超え、年々増加する傾向にあった。

こうしたサービスに対する需要は大きいと思われたが、利用度がそれほど高くないサ

ービスが多く見られ、そうしたサービスの認知度は低かった。すなわち、情報提供や利用援助が十分ではなかったのである。現に、自治体の調査などでは、適切な情報提供と利用の際の丁寧な援助を求める意見が多くあることがわかった。情報を保護者のニーズに合わせて適切に提供し、確実にサービスを利用できるように斡旋（リンク）、援助するコーディネート機能（ソーシャルワークにおけるケースマネジメント）が求められたのである。

実はこうした状況が起こることは早くから認知され、「子育て支援総合コーディネート事業」が国庫補助によるモデル事業として実施されていた。しかし、すぐに自治体の一般財源での事業となったために、自治体によって事業実施や内容が大きく異なることとなった。当初ソーシャルワークとしてのコーディネートも明確であったが、やがてそれも曖昧となり、子育て家庭からの要望があるにも関わらず、コーディネート事業は後退していたのである。

## 2. 研究の目的

こうした状況を踏まえ、本研究では、子育て支援総合コーディネートの実態を把握するとともに、ソーシャルワークの視座から子育て支援総合コーディネートを捉え直し、ソーシャルワークとしての子育て支援総合コーディネート実践モデルを開発することを目的とした。なお、子育て支援総合コーディネート事業という名称はもはや使用されておらず、新たな子ども・子育て支援法においても「子育て（支援）コーディネーター」といった名称は存在するが確定されたものではない現状を考慮し、本報告書では、「子育て支援コーディネーター」、そしてそれを担うソーシャルワーク的視点を持った専門職を「子育てコンシェルジュ」と表現することとした。

## 3. 研究の方法

子育て支援コーディネーターのためのソーシャルワーク実践モデルの研究開発に当たっては、芝野（2002）\*の実践モデル開発手続きである M-D&D（修正デザイン・アンド・ディベロップメント）を用いることとした。

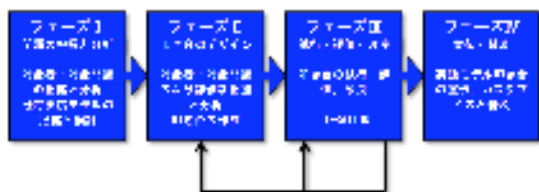


図1 M-D&Dのプロセス

M-D&Dの開発プロセスは、図1に示すように4つのフェーズから構成されており、問題の把握と分析、叩き台のデザイン、その試行・評価・改良、そして宣伝・普及となっており、一般に数年をかけて、実践モデルを開発し、普及させるものである。本開発的研究では、3年の研究期間の中で、フェーズⅠからⅢを行い、最終年度に実践モデルを普及させるための実践マニュアルとして、研究成果を本の形で出版することを目標とした。

## 4. 研究成果

(1) 初年度（平成22年度）は、全国自治体（1717市区町）の全数を対象に、子育て支援総合コーディネートの実施状況や今後の取り組みについて自記式質問紙調査を実施した。質問紙作成に当たっては、先行研究を含む文献調査に加え、自治体や子育て支援現場に関わる専門職、子育て支援総合コーディネーター研修等に関わる研究者に対してヒアリングを実施した。市区町の担当者に関しては50.8%の回収率であったが、コーディネーターについてはわずかに13.6%であった。予想通りの結果だったが、子育て支援総合コーディネート事業を十分に行えている自治体はごくわずかであった。また、ソーシャルワーク的な視点の弱さも明確となった。詳細は平成22年度の報告書に記した。

(2) 平成23年度は、平成22年度に実施した調査結果を精査し、子育て支援コーディネーターのためのソーシャルワーク実践モデルのデザインを行った。

①まず、西宮市子ども部の協力を得て、市内で提供されている次世代育成支援後期行動計画に関連する主に公的資源をデータベース化し、「子育て支援データベース・ナビ・システム」を研究開発した。これは、ソーシャルワークとしての子育て支援総合コーディネート実践モデルの重要な構成要素の1つである。データベースは、汎用型データベース・ソフトウェアとして幅広く活用されているFileMakerを使用し、ニーズに基づくカテゴリー検索、子どもの発達段階に基づくカテゴリー検索、施設検索、そして単語によるフリー検索などを可能とした。また、このデータベースを稼働できるハードウェアは、iPad（iPad mini や他のタブレット端末を含む）とした。iPadを用いる理由は、子育てコンシェルジュが利用者である保護者（親）と子どもとにできるだけ寄り添い、その場で、ニーズを聴き取りながら、たくさんの資源情報の中から最適なサービスを抽出し、情報提供するためである。平成23年度はこのデータベース・ナビ・システムの叩き台を作成した。叩き台は、西宮市の子ども部及び子育て総合センターの協力の下に、試用、改良された。

②続いて、ソーシャルワークとしての子育て支援総合コーディネート実践モデルのもう一つの主たる構成要素である「子育て支援コーディネート・ナビ・システム」の基本設計を終えた。子育てに関するニーズを持つ保護者（親）が地域の資源を利用することによってそのニーズを充たしたいと思い、子どもとともに児童館など地域の子育て支援拠を訪れる。対応する子育てコンシェルジュは、保護者の訴えに耳を傾け、保護者を受容するとともに、ニーズの把握に努める。すなわち、十分なアセスメントを行う。そして、アセスメントに基づき、保護者とともに自治体が提供している社会資源を検索し、もっとも適切な資源を抽出し、保護者と共有することになる。単なる情報共有（提供）に留まらず、ソーシャルワーカーとしての子育てコンシェルジュは、保護者が確実に資源を利用できるように援助し、利用が適切になされたかどうかモニターし、満足が得られたどうかを評価することになる。このプロセスが子育て支援コーディネートのプロセスであり、これを導く実践モデルがコーディネート・ナビ・システムということになる。プロセスを直線的に説明したが、資源の抽出、利用は、1回で満足を得られるものではないかもしれない。したがって行きつ戻りつしながらよりよい援助を行うことになる。この全体のプロセスを基本設計の叩き台として図2に示す基幹フローチャートを作成した。

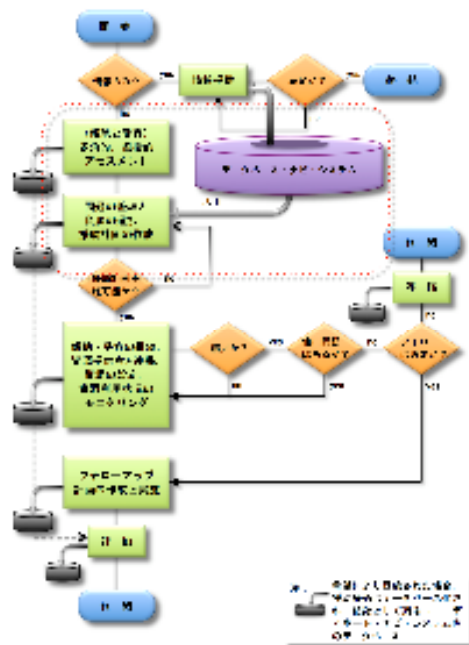


図2 子育て支援総合コーディネート実践モデル基幹フローチャート

(3)本研究の最終年度に当たる平成24年度は、子育て支援データベース・ナビ・システムの試行・改良、そして、昨年度基本設計を終え

た子育て支援コーディネート・ナビ・システムのソフトウェアを、FileMakerを用いてプログラミングし、西宮市子ども部の協力を得て試行・評価・改良を行った。

①データベース・ナビに関しては、社会資源情報の修正、アップデートを行うとともに、さまざまなカテゴリーに正しく分類されているかなどを確認し、必要に応じて修正した。この修正データベース・ナビ・システムを試用し、さらに修正点の確認を行い、修正を行った。また、試用による現場からのフィードバックを受け、より使用者に理解されやすいようにインターフェースの改良も行った。

②コーディネート・ナビ・システムについては、基幹フローチャートをより詳細に検討しながら、詳細なブランチ（枝）フローチャートを作成し、プログラミングを実施した。たとえば、アセスメントのブランチに関しては、援助対象者である家族のメンバー（親、子ども）から子育てや成長・発達に関するニーズを綿密に拾い上げるための詳細な項目を、初年度の実態調査や文献研究、当事者・専門職・研究者の意見を再検討し抽出した。これに、対象者の性別・年齢等の基本的なデモグラフィックデータの項目作成、子育て不安や負担に関わる尺度を加えた。

③こうしたアセスメントデータを活用し、適切な資源を選択するために、子育て支援データベース・ナビ・システムにスムーズに移行できるよう2つのシステムを統合した。

こうして、ソーシャルワークとしての子育て支援総合コーディネート実践モデルを、2つのナビ・システムを統合した形として完成し、本開発的研究で目指した最終成果とすることができた。

(4)最終成果の概要：最終成果としてまとめたソーシャルワークとしての子育て支援総合コーディネート実践モデルは、すでに述べたように①子育て支援データベース・ナビ・システムと②子育て支援コーディネート・ナビ・システムという互いに関連する2つのシステムから出来上がっている。これらのシステムの理論的背景や詳細な仕組みについては、本研究の成果として出版した『ソーシャルワークとしての子育て支援コーディネート-子育てコンシェルジュのための実践モデル開発』（関西学院大学出版会）に網羅しているので、参照していただきたい。本報告書では、この2つのシステムをiPad（iPad mini）を用いて活用した際のスクリーンショットを用いて概要を紹介するにとどめたい。

図3は、iPadでシステムを立ち上げたときのフロントページで、IDとパスワードの入力が必要になる。図4は、ログオン後の最初のページで、既存の受付記録や相談記録の検索と同時に、ケース（相談者）の登録ができる

ようになっている。1 回きりの相談ケースあるいは名前も告げられずに簡単な情報提供で終わるケースもあるが、そうしたケースも登録されることになる。日常の業務の中ではきわめて多いケースと考えられるが、そうしたケースについても、わかる範囲で記録にとどめることは、後の統計分析にも役立ち、コンサルジュの重要な仕事となる。



図3 ナビ・システムのフロントページ



図4 ログイン後のトップページ

図5は「受付記録」ページである。相談ケース（子どもと保護者）についての簡単な属性情報が入力される。詳細な情報は、図6の相談者プロフィールページにおいて入力されることになる。



図5 「受付記録」ページ

こうした情報の入力に当たって、子育てコンサルジュは、尋問するかのようにな事務的に情報を聞き出すのではなく、相談者のこと

ばに耳を傾け（傾聴）、相談者を丸ごと受け入れる（受容する）姿勢が重要である。また、一度に情報項目をすべて埋める必要はなく、できれば継続的に関わられるようにしながら埋めていくことも重要になる。



図6 「プロフィール」ページ  
(上：大人用、下：子ども用)

図7は、アセスメントから援助方針へと進んで行く中、記録されていった情報を全体として捉える（進捗状況の把握）とともに、アセスメントや援助計画、相談者のニーズについてより詳細に見るとともに、援助にしたがって情報を追加していくことができる。



図7 「援助記録詳細」ページ

図8は、アセスメント結果に基づき、子育て支援データベース・ナビ・システムを利用して社会資源の検索、選択を行うときのトップページである。図7の右上にある「資源DB」ボタンをクリックすると移動できる。このデータベース・ナビ・システムでは、ニーズに

合った資源を、自治体のホームページ（西宮市「子育てガイド」）にリンクして検索することもできるし、キーワードにより自由な検索もできるが、施設名やカテゴリー化されたサービス、項目から検索することができる。



図8 資源 DB ナビトップページ

図9は「サービスを探す」の「したい事」によってカテゴライズされた項目を選択し、絞り込んでいくページである。図10は、「したい事」の中から「子どもを預けたい」を選択し、8つのサービスが抽出されたページである。スクロールすることによって全てのサービスの概略を見ることができる。



図9 「サービスを探す」の検索ページ



図10 「したい事」の検索結果ページ

図11は、「したい事」の検索結果ページからサービスを選んだ最終ページである。選択

されたサービスを提供している施設の名称、場所、利用方法などが示される。また、このページでは、実際に利用された場合には、利用に関する記録や利用後の評価を残すこともできる。



図11 選択したサービスのページ

最終成果としての実践モデルについて、子育て支援コーディネート・ナビ・システムと子育て支援データベース・ナビ・システムをiPad上で利用したときのページを見ながらごく簡単に説明した。平成22年度にスタートした本開発的研究は、予定通り平成24年度の最終年度に実践モデルをICTを活用したナビゲーション・ソフトウェアとして完成し終了することができた。今後、この開発成果は、さまざまな機会を利用して宣伝・普及していくことになる。すなわち、M-D&D 研究開発プロセスのフェーズIVに進むことになる。すでに述べたように宣伝・普及の努力として本研究の成果を本として出版した。平成27年度にスタートする新たな子ども・子育て支援においても、子育て支援総合コーディネートと、その任を担う子育てコンシェルジュは、社会全体での子育て支援の要となる。本研究の成果がこれに貢献できれば幸いである。

\*芝野松次郎、有斐閣、社会福祉実践モデル開発の理論と実際-プロセティック・アプローチに基づく実践モデルのデザイン・アンド・ディベロップメント、2002、258

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ①平田祐子、芝野松次郎、小野セレストア摩耶、子育て支援総合コーディネートに必要な「力量」に関する研究、子ども家庭福祉学、査読有、12号、2013、93-105
- ②小野セレストア摩耶、A市地域子育て支援拠点事業の利用者評価に関する研究-実施場所別の分析を中心に-、Human Welfare、査読無、5巻1号、2013、75-85
- ③平田祐子、子育て支援総合コーディネート

事業の変遷-子ども家庭福祉分野のケースマネジメントとしての必要性-, Human Welfare、査読無、4巻1号、2012、55-68

④芝野松次郎、社会福祉系大学における人材養成の意義と課題-いかに研究と実践の成果をソーシャルワーク教育課程に反映させるか-, 社会福祉研究、査読無、115号、2012、21-29

⑤平田祐子、子育て支援総合コーディネーター事業の変遷-子ども家庭福祉分野のケースマネジメントとしての必要性-, 査読無、Human Welfare、4巻1号、2012、55-68

⑥芝野松次郎、ソーシャルワーク実践と理論をつなぐもの-実践モデル開発のすすめ、ソーシャルワーク学会誌、査読無、23巻、2011、1-17

〔学会発表〕(計8件)

①平田祐子、芝野松次郎、小野セレストア摩耶、子育て支援総合コーディネーターの属性と「コーディネーターに求められる力量や役割」に関する要因の関係、日本社会福祉学会第60回秋季大会、2012.10.20、関西学院大学(兵庫県)

②小野セレストア摩耶、A市地域子育て支援拠点事業の利用者評価-満足度を中心にして-, 日本社会福祉学会60回秋季大会、2012.10.20、関西学院大学(兵庫県)

③平田祐子、芝野松次郎、小野セレストア摩耶、子育て支援総合コーディネーターの実態調査3-コーディネーターへの調査の分析-, 日本子ども家庭福祉学会第13回全国大会、2012.06.03、大阪府立大学(大阪府)

④小野セレストア摩耶、A市地域子育て支援拠点事業の利用者評価、日本子ども家庭福祉学会第13回全国大会、2012.06.03、大阪府立大学(大阪府)

⑤芝野松次郎、エビデンス・ベースドの社会福祉研究・実践をいかに進めるか、日本社会福祉学会第60回春季大会シンポジウム(招待講演)、2012.05.27、東洋大学白山キャンパス(東京都)

⑥平田祐子、芝野松次郎、小野セレストア摩耶、子育て支援総合コーディネーターの推進に影響を与える要因に関する研究、日本社会福祉学会第59回秋季大会、2011.10.09、淑徳大学(千葉県)

⑦小野セレストア摩耶、芝野松次郎、平田祐子、子育て支援総合コーディネーターの実態調査①-市区町の実施状況と実施内容を中心に-, 日本子ども家庭福祉学会第12回全国大会、2011.06.05、熊本学園大学(熊本県)

⑧平田祐子、芝野松次郎、小野セレストア摩耶、子育て支援総合コーディネーターの実態調査②-求められるコーディネーター像と実態の関係性を中心に-, 日本子ども家庭福祉学会

第12回全国大会、2011.06.05、熊本学園大学(熊本県)

〔図書〕(計4件)

①芝野松次郎、小野セレストア摩耶、平田祐子、関西学院大学出版会、ソーシャルワークとしての子育て支援コーディネーター-子育てコンシェルジュのための実践モデル開発-, 2013、223

②芝野松次郎、高橋重宏、松原康雄、ミネルヴァ書房、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度[第2版]、2013、225

③芝野松次郎、小西加保留、相川書房、社会福祉学への展望、2013、303

④小野セレストア摩耶、関西学院大学出版会、次世代育成支援行動計画の総合評価-住民参加を重視した新しい評価手法の試み-, 2011、360

〔その他〕

ホームページ等

<http://kosodate-concierge.com/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

芝野 松次郎 (SHIBANO MATSUJIRO)  
関西学院大学・人間福祉学部・教授  
研究者番号：60162640

### (2) 研究分担者

小野セレストア 摩耶 (ONO SHRESTHA MAYA)  
滋慶医療科学大学大学院・医療管理学研究科・専任講師  
研究者番号：80566729

### (3) 連携研究者

### (4) 研究協力者

平田 祐子 (HIRATA YUKO)  
関西学院大学・人間福祉研究科・奨励研究員